



事業推進テーマ

“知識が知恵に変わるところ”

空知教育センター課題研究

空知教育センター

空知教育センター課題研究(2/2 年次) 研究のまとめ

「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

～自己の学びを振り返り、主体的な学びの実現を図る学習指導の充実～

小・中学校学習指導要領【総則編】において「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するに当たって、特に主体的な学びとの関係からは、児童・生徒が学ぶことに興味や関心をもつことや、見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげることなどが重要」とあり、知識や解き方の会得から課題の発見や新たな学びに向かうことができるようにするためには学習における見通しと振り返りの在り方が極めて重要であるとされています。そこで、これまで空知教育センターで取り組んできた研究を踏まえ目指す子ども像と研究仮説を次のように設定しました。

○ 「目指す子ども像」と「研究仮説」

目指す子ども像

- 自己の学びを振り返り、学びの状況を把握して次の学習につなげようとする子ども

研究仮説

- 振り返りの視点を与えることで、子どもがより効果的に学びを振り返ることができ、確かな学びにつなげることができるであろう。
- 振り返りを活用する場面を設けることで、学びのつながりを実感し、主体的に学習に取り組む態度が養われるであろう。

○ 研究の重点

本研究において、主体的な学びを実現するために、児童・生徒に学習の見通しを持たせること、振り返って次につなげることについては効果が見られました。今年度の研究では、振り返って省みる活動をより効果的なものとすることを目指しました。そこで、今年度の重点を「振り返りの効果的な活用」とし研究を推進しました。



引用：「キャリア・パスポートってなんだろう？」文部科学省

○ 今年度の課題研究の主な取り組み

理論研修

- 振り返りの効果的な活用について、その目的やねらう効果、事例などの理論研修

検証授業

- 指導案検討
- 4名の課題研究協力員の所属校にて検証授業を実施

実践交流

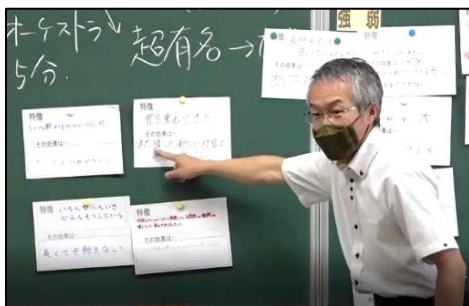
- 実践の交流
- 実践における課題の共有
- 指導改善に向けた交流

授業実践紹介

4名の先生方の指導案とワークシートはこちら！



検証授業① 滝川市立開西中学校 桑島 誠 教諭



第2学年 音楽「音楽の構成や特徴を味わいながら鑑賞しよう」

鑑賞のポイントを示して「ボレロ」という曲を鑑賞し、どのような特徴があるのかを考える授業実践をしました。

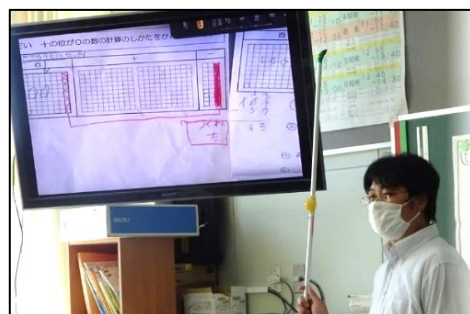
「自己評価とその理由」を問う振り返りを行い、記述内容から何が分かったか、疑問に思うことなどを見取り、生徒の学びの様子を把握するのに活用しました。

検証授業② 新十津川町立新十津川小学校 平川 慎吾 教諭

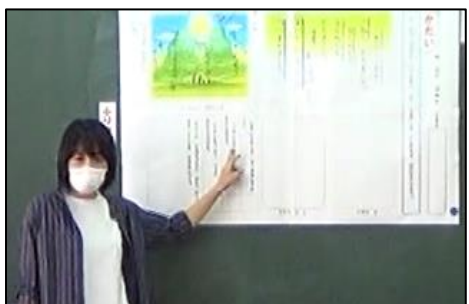
第2学年 算数「たし算とひき算」

十の位に空位がある3位数－2位数の学習で、間違った計算方法を出題しその正誤を考える授業実践をしました。

学習のまとめをする前に「一番大切なこと」を振り返り、児童同士で共有し、学習のまとめを児童とともに作るのに振り返りの言葉を活用しました。



検証授業③ 砂川市立豊沼小学校 大津留 あい 教諭



第1学年 国語「けんかした山」

登場人物が話している様子を想像することを通して、物語を楽しく読み、内容の大体を捉える授業実践をしました。

場面ごとのワークシートと振り返りを一体化し、学習内容と振り返りを積み重ねる工夫をしました。また、少人数活動に入る前に振り返りの視点を示し、活動の目的を共有するのに活用しました。

検証授業④ 新十津川町立新十津川中学校 小野 治 教諭

第3学年 国語「人工知能との未来／人間と人工知能と創造性」

2つの論説文を比較しながら読み、「これからの社会に必要なもの」について考えを交流することで考え方を広げる授業実践をしました。

論説文の読み取り、仲間との交流を通して、どのように自分の考えが変容したのかを見取ることができるように、毎時間ごとに学習のねらいに合わせた振り返りの視点を示す工夫をしました。



1年次の授業実践や成果と課題が載っているリーフレットはこちら！

【1年次（令和2年度）の課題研究委員会の取組】

- ・検証授業① 滝川市立西小学校 池端 健二 教諭
第6学年 算数 「比」
- ・検証授業② 深川市立一己中学校 中島 悠記 教諭
第2学年 外国語 「比較級」



単元や題材のまとまりを意識した振り返り

一枚の紙に単元全体の学習の振り返りを積み重ねることができる振り返りシートを作成し、単元や題材を通して個々の学びの変容に気付かせる工夫をしました。また、毎時間のワークシートと一体化し、学習内容との関連が分かりやすい振り返りの在り方についても検証しました。

単元や題材を通して取り組む振り返り



単元を通して変容を見ることができる！

(例) 国語 読むこと

論説文を読み、立場を明らかにして、意見文をまとめていくという全3時間の単元構成。

【学習活動】

第1時

論説文を読み、自分なりの意見をもつ。

第2時

グループディスカッションを通して立場を見直す。

第3時

筆者の主張、友達の意見をもとに自分なりの考えを文章にまとめる。

第3時	第2時	第1時
<p>日付 ③</p> <p>自分の考えを文章にまとめるよう</p> <p>目標</p> <p>自分の立場以外に、どのような立場が考えられるか。</p> <p>「批判的に読む」とは、どういふときに必要か。</p>	<p>日付 ②</p> <p>文章の比較を基にディスカッションし、考えを広げよう。</p> <p>目標</p> <p>自分の考えがどう広がったか、どう深まったか、どう変わったか</p> <p>疑問点</p> <p>どちらの意見に賛成(近しい)か</p>	<p>日付 ①</p> <p>それぞれの文章の要旨を捉えよう。</p> <p>目標</p> <p>筆者の意見や根拠に納得できたか(理由も含めて記述)</p> <p>疑問点</p> <p>どちらの意見に賛成(近い)か</p>
<p>言語活動に生かす</p>	<p>考えを広げる</p>	<p>考えをもつ</p>

国語 振り返りシート 三年 組 番氏名

自分の考えがどのように変わったか、何によって変わったかを見直すことができる。

ワークシートと一体化した振り返り

ワークシートを活用して学習を進める場合、振り返りと一体化させ、ファイルにとじたり、ノートに貼ったりすることで、毎時間の学習内容と自己の学びの様子が一目で分かるというよさがあります。

この授業で何を学んだか、どう学んだかをしっかり定着ができる。



学習内容とつながる振り返り

けんかした 山 ⑤の ばめん なまえ

すっかり みどりに つつまれた 山の ふさだしを かんがえて おんどくしよう。

一ねん、二ねん、三ねん たちました。なんねんもなんねんもたちました。

山は、すっかり みどりに つつまれました。

ふりかえり【◎○△】

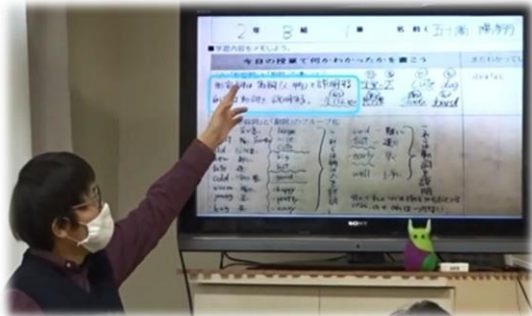
山のふさだしを そうぞうして かけた。	ふさだしを そうぞうして かけた。
ペアのともだちと じょうずに はなしあえた。	ふさだしをつけて、ペアでおんどくできた。
おんじくす。	きょうの じゆぎょうで、わかったこと、おもったことを かきましよう。

ひだりの 山

振り返りの生かし方

授業の「導入」「展開」「終末」場面でどのように生かしていくか、教室環境にも振り返りを生かして学びのつながりを意識させることなどが効果的であると分かりました。

【導入場面】既習内容の確認



パッと確認！大事なことに時間をかける！

児童・生徒が記入した振り返りを紹介することで、ポイントを絞った復習や課題解決の見通しをもたせることができました。授業のねらいによって何を振り返るかが大切ですが、指導者が意図をもって振り返りを促し、導入がコンパクトになります。

タイムマネジメント

【展開場面】目的をもった活動



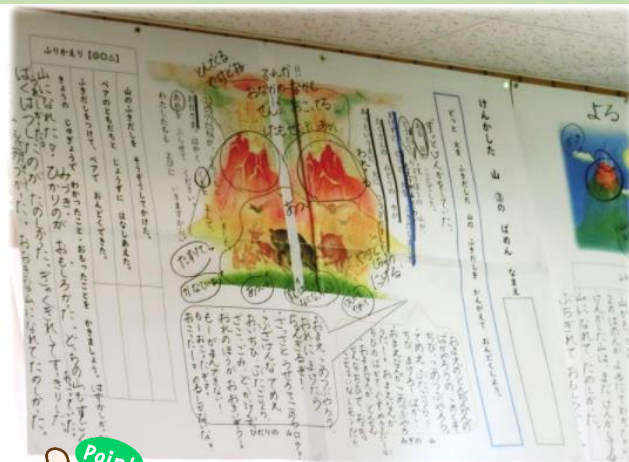
グループ活動で目指す姿を示す！

グループ活動を始める前に、振り返りの視点を確認することで「何のための話し合いか」、「どのように話し合うか」を明確にすることができました。

少人数で活動をするグループによって取組に差がでますが、ゴールを共有することで目的をもって活動することが可能になります。

協働的な学び

【終末場面】児童・生徒の言葉を残す



学びがつながる！



振り返りの言葉を残し、「何を学んだか」「どのように学んだか」を教室掲示として残しておくことによって、学びのつながりを意識させることができます。

特に小学校段階では児童の言葉が残ることで、活躍の場を生み出したり、学習意欲を高めたりすることにつながるため、効果があります。

主体的に学習に取り組む態度

教科による振り返り方の違い

小学校の実践では国語と算数，中学校の実践では外国語（英語）と音楽と国語で授業を行い，そこから見えてきた振り返り方の違いについてまとめました。

国語・音楽

→ 読むこと，鑑賞など

- 作品（内容）に対する振り返り

算数・外国語

→ 課題からまとめの
流れが明確

- 課題解決の過程に対する振り返り

国語

今日の学習の振り返り	自己評価	評価の理由（わかったこと・できたこと、できなかったこと等）
「ボレロ」を聴いて、曲の構成や特徴について理解することができましたか？	4	ちゃんと聴いたので4です。同じAの形で分けて、Aの音が弾に残り、少い事化でさらにによって音とさでない。木村 ありのめかみかみ。ト
疑問に思ったこと		さらに書きたい・やっぴあせい

算数

今日の授業で何かわかったかを書こう	まだわかっていないところ【問題でも可】	面白かった点【印象に残った言葉でも可】
(ウ) 助動詞「may」、「shall」などの意味がわかった。また、助動詞の動詞の前におく動詞は必ず原形というのわかった。		May I help you? っていう言葉に驚いた。
(ホ) 前置詞「in」と「by」と「at」の使い分けがわかった。同じ「in」という日本語でも、意味によって「in」だ「at」だと思った。	主語のない文章では全て主語が「You」になるのか？ (天気以外)	
(ニ) ～したいという意味の言葉でも丁寧な言い方とそれ以上で「want to」と「I would like to」とで使い分けられるのわかった。	野郎! したい → 誰の? 私が	これの音を10年間そとリ続けていた「うらみさこ」さんがびっくりした。
(ハ) 「of」、「by」、「in」、「at」などの前置詞にもいろいろは意味があって使われているのわかった。	1	学カテストのセリ抜き? みたいなのが少く少く変えるだけですが、たか悪味の変ったものになったこと。

音楽

音楽の構成や特徴を味わいながら鑑賞しよう

【毎時間の振り返り】 次の点について、毎時間の自分の学習を振り返ってみよう。
 <評価の目安> できた…4 どちらかといえばできた…3 どちらかといえばできなかった…2 できなかった…1

今日の学習の振り返り	自己評価	評価の理由（わかったこと・できたこと、できなかったこと等）
「ボレロ」を聴いて、曲の構成や特徴について理解することができましたか？	4	ちゃんと聴いたので4です。同じAの形で分けて、Aの音が弾に残り、少い事化でさらにによって音とさでない。木村 ありのめかみかみ。ト
疑問に思ったこと		さらに書きたい・やっぴあせい

鑑賞のポイントをもとに，作品をどのように捉えたかを振り返る

外国語

■学習内容をメモしよう。

今日の授業で何かわかったかを書こう	まだわかっていないところ【問題でも可】	面白かった点【印象に残った言葉でも可】
(ウ) 助動詞「may」、「shall」などの意味がわかった。また、助動詞の動詞の前におく動詞は必ず原形というのわかった。		May I help you? っていう言葉に驚いた。
(ホ) 前置詞「in」と「by」と「at」の使い分けがわかった。同じ「in」という日本語でも、意味によって「in」だ「at」だと思った。	主語のない文章では全て主語が「You」になるのか？ (天気以外)	
(ニ) ～したいという意味の言葉でも丁寧な言い方とそれ以上で「want to」と「I would like to」とで使い分けられるのわかった。	野郎! したい → 誰の? 私が	これの音を10年間そとリ続けていた「うらみさこ」さんがびっくりした。
(ハ) 「of」、「by」、「in」、「at」などの前置詞にもいろいろは意味があって使われているのわかった。	1	学カテストのセリ抜き? みたいなのが少く少く変えるだけですが、たか悪味の変ったものになったこと。

比較級の英文を書くときのポイント

○ 本研究の成果と課題

〔本研究の重点〕

- 振り返りの視点を与えること
- 振り返りの効果的な活用

成果

- 自己の変容や学びの深まりを児童生徒自身が認識することにつながった
- 各教科等の特質に応じた、効果的な振り返りのあり方を見いだせた
- 学習場面ごとの振り返りの効果的な活用について整理された

課題

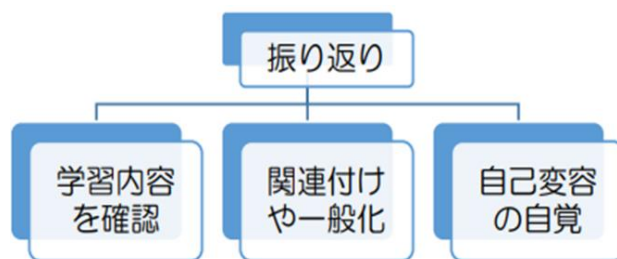
- 指導と評価の一体化に向けた振り返りの在り方を模索すること
- 学びと生活をつなげる振り返りを行うこと
- 小学校から中学校の9年間を見据えた体系的指導が肝要であること

〔成果について〕

本研究において目指してきた、自身の学びの状況を把握し、次の学びへとつなげることについては成果が見られました。単元を通して「何がわかり」「できるようになった」のかなど、自身の変容をワンページ・ポートフォリオ（OPP）などを活用することで、効果的に自覚させることに結びつきました。また、各教科等の特質や単元や題材のねらいに応じて効果的な振り返りについて整理することにつながりました。

〔課題について〕

主体的に学習に取り組むための振り返りとして、学習内容の「関連付けや一般化」していくことについて課題が残りました。加えて、学習後に行われた振り返りをどのように評価し、指導の改善に役立てていくかという、指導と評価の一体化に向けた検証も必要であるとの意見も出ました。そして、認知領域における発達段階に応じて、振り返りの方法を軸とした、児童生徒の9年間を見据えた振り返りのあり方を検討する余地についても課題があげられました。



参考：『深い学び』田村学 著 東洋館出版社

〔課題の解決に向けた手立て〕

指導と評価の一体化

- 単元や題材のまとまりのなかで、適切なタイミングで実施すること
- 相互評価で自身の活動を振り返る
- ICTを活用し、共有を図ること

関連付けや一般化

- ねらいや目的に応じて適切な振り返りの視点を与えること
- 「振り返り」を活用し、これまでの学習とどう関連しているかを振り返ること

発達段階に応じた振り返り

- 4件法や感想を言う（書く）など、発達段階に応じた振り返りを行うこと
- 一人一台端末を活用し、発達段階に依らない振り返りを行うこと

発行にあたって

時代は大きな変革期を迎え、超スマート社会（Society5.0）が到来しようとする現代社会において、地球上に突如現れ、人類に多大な不安と混乱をもたらしているコロナウイルス感染症は、緊急事態宣言が解除された昨年10月1日以降年末までは小康状態が続いていましたが、新年を迎えてからは日ごとに激増し、第6波が到来するなど、一向に終息の気配を見せず2年が経過しました。ウイルスは何度も変異を繰り返し、検温と消毒を必要としない普通の生活がいつ戻って来るのか、全く予測できない状況となっています。しかしながら、未来社会が先行き不透明でどんなに複雑化しても、子どもたちには持続可能な社会の創り手となることが期待され、主体的に判断し、様々な人々や社会と関わりながら課題を解決していくための力の育成が求められています。

そこで、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して、学習活動のさらなる充実に向け、これまでに培われてきた様々な工夫と共に、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要となっています。

このため、空知教育センターでは、令和2年度から、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方～自己の学びを振り返り、主体的な学びの実現を図る学習指導の充実～を研究主題と設定した2か年の研究をスタートさせました。

また、研究推進にあたっては、管内小中学校からご推薦いただいた意欲的な6名の課題研究協力員と担当所員により、「空知教育センター課題研究委員会」を組織し、研究実践を進めてまいりました。2年間、延べ16回にわたる研究では、検証授業や研究協議が集合形式からリモート形式に変更になるなど、当初予定からの変更や制約がある中での研究推進を余儀なくされましたが、(1)「振り返り」の視点を与える、(2)「振り返り」の有効的な活用、を研究の重点として論議を深めることができたと考えております。

このたび、2年間の理論研究や検証授業、分析結果、考察や残された課題などをとりまとめたリーフレットを発刊する運びとなりました。このリーフレットを各学校の校内研修、また、日々の実践の参考資料としていただければ幸いです。

結びに、本研究推進に際して意欲的・献身的に取り組まれた課題研究協力員の皆様、ご指導・ご助言をいただきました関係市町教育委員会、各学校の皆様にご心より感謝とお礼を申しあげ、発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和4年3月

空知教育センター所長 岩田 稔

令和3年度 空知教育センター 「確かな学力」課題研究委員会の構成員紹介

委員長	桑島 誠	教諭	滝川市立開西中学校
副委員長	大津留 あい	教諭	砂川市立豊沼小学校
委員	池端 健二	教諭	滝川市立西小学校
//	平川 慎吾	教諭	新十津川町立新十津川小学校
//	小野 治	教諭	新十津川町立新十津川中学校
//	中島 悠記	教諭	深川市立一已中学校
担当所員	西條 亨	所員	滝川市立明苑中学校
//	辻 瞳	所員	赤平市立赤間小学校



活動の様子

空知教育センター課題研究 「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方 研究のまとめ

発行日 令和4年3月30日

発行者 空知教育センター所長

所在地 滝川市文京町4丁目1番1号

TEL 0125-22-1371

FAX 0125-22-1372

Eメール kyosen@sorachi-ed.jp

URL <http://sorachi-ed.jp/>

令和4年度に開催する各種講座及び課題研究事業の詳細は、空知教育センターHPをご覧ください。

空知教育センター

検索

